2011年11月6日日曜日礼拝メッセージ　　クリスチャンプレイズチャーチ

【小さな子どもをとおしても栄光を受けられる神様(2)】

聖書:第二列王記5章9-14節/ 暗唱聖句:ローマ人への手紙10:17

説教者:鄭南哲(ジョンナムチョル)牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! 一週間の間もお元気でしたか。急に寒くなりましたので、風邪を引かないように気をつけながら元気に11月を過ごせるみなさんとなりますようにお祈り申し上げます。

先週のアラムの国の将軍だったハンセン病にかかわっていたナアマンの話の続きです。
愛するみなさん、なぜ多くのらい病の患者たちの中で、ナアマン将軍だけがいやされたのでしょうか。

＜1. 傾ける心と耳を持つ大切さ ＞

その理由は彼が小さい者の話しに耳を傾けたからです。小さい者の話しを聞いて、その話を信じました。小さい女の奴隷の話にも希望をいだきました。女の奴隷が言った話しをアラムの王に言って話します。**“それで、ナアマンはその主君のところに行き、イスラエルの地から来た娘がこれこれのことを言いました、と告げた。”(第二列王記5:4)**
アラムの王はナアマン将軍から聞いた話をもとにイスラエルの王にあてて手紙を書いてあげます。ナアマン将軍はイスラエルのサマリヤに行ってエリシャに尋ねていったら、なんとエリシャは出迎えもしずに、使いを通して言わせます。ヨルダン川に行って七度体を洗うように命じます。その話しを聞いたナアマン将軍はかんかん怒ってもう帰ろうとします。ナアマン将軍はエリシャが出て来て神様の御名で自分の傷のうえに手をおいて祈り、治してくれるだろうと思ったからです。
“しかしナアマンは怒って去り、そして言った。「なんということだ。私は彼がきっと出て来て、立ち、彼の神、主の名を呼んで、この患部の上で彼の手を動かし、このツァラアトに冒された者を直してくれると思っていたのに。ダマスコの川、アマナやパルパルは、イスラエルのすべての川にまさっているのではないか。これらの川で洗って、私がきよくなれないのだろうか。」こうして、彼は怒って帰途についた。”(第二列王記5:11-12)

ナアマン将軍にやってきた危機です。エリシャの話しに従うべきか、それとも帰るべきか選択の岐路(きろ)に立たされています。そのときナアマン将軍のしもべたちが来て説得します。
“その時、彼のしもべたちが近づいて彼に言った。「わが父よ。あの預言者が、もしも、むずかしいことをあなたに命じたとしたら、あなたはきっとそれをなさったのではありませんか。ただ、彼はあなたに「身を洗って、きよくなりなさい」と言っただけではありませんか。”(第二列王記5:13)

結局ナアマン将軍はしもべらの話を聞き入れ、ヨルダン川に下って行って、七たび体を洗い、直されました。ここにナアマン将軍のすばらしさがあります。小さい女奴隷の話を聞くことができ、そして彼とともに動いていたしもべらの話にも耳を傾けることができていました。彼は聞くことによって信仰を持ちました。イエス様はナアマン将軍が異邦の人でしたが、信仰の人だったとほめておられます。ナアマン将軍が直されたのは彼の信仰のためだったと強調しています。
“また、預言者エリシャの時に、イスラエルにはツァラアトに冒された人がたくさんいたが、そのうちのだれもきよめられないで、シリヤ人ナアマンだけがきよめられました。”(ルカの福音書4章27節)
この御言葉の背景はイエス様がご自分の故郷に行かれたとき、故郷の人たちはイエス様を信じなかった状況でした。彼らが信じなかったためイエス様は奇跡を行いませんでした。
その時、イエス様はいざ神様を信じるべきイスラエルの民たちは神様を信じないで、むしろ異邦人たちが神様をもっと信じることをみながらナアマン将軍の話をされたわけです。ナアマン将軍はシリヤ人でアラムの人でした。しかし、彼は神様を信じました。神様の助けをいただくためにサマリヤにいるエリシャに尋ねました。彼はエリシャが信じている神様の御名の力を知っていました。彼の告白からみればエリシャの神様を信じていたことがわかります。

ナアマン将軍が怒ったのはエリシャが提案した病気をいやす方法のためであって、神様の御力に怒ったわけではありません。ナアマン将軍は神様が自分の病気を直してくださることを信じていました。これは本当にすばらしい信仰です。当時イスラエルのらい病の患者たちは神様が自分たちの病気を直してくれるのだと信じていませんでした。預言者エリシャが自分たちのらい病を直してくれるだろうと信じませんでした。しかし、ナアマン将軍は信じました。神様は信じる者の中で働かれます。神様の奇跡を体験するためには聴く耳を持たなければなりません。いかりと高慢と自分の思いを警戒しなければなりません。もし、ナアマン将軍がいかりを静(しず)めなかったなら、彼は直されなかったでしょう。彼は高慢な心をいだいてエリシャから去ったなら、彼は直されなかったでしょう。彼が自分の思いにとらわれアラムの地に戻ったなら、彼はらい病で死んだかもしれません。幸い、彼は怒りをおさめることができました。思いを変えることができました。心を入れ替えることができました。彼は開いた耳と心を持っていました。

愛する信仰の家族のみなさん!
ナアマン将軍のように耳が開かれれば、直されます。耳が開かれれば人生の扉が開かれます。新しい未来が開かれます。耳が開かれれば希望の扉が開かれます。耳を開いてください。思いを入れ替えてください。自分の固執(こしつ)を捨ててください。
ナアマン将軍のように柔軟性(じゅうなんせい)を持ってください。ほかの人の考えに扉を開いてください。ナアマン将軍は小さい女奴隷をとおして、エリシャをとおして、そして、彼とともに同行したしもべらをとおして神様の御声を聞きました。その御声を聞いて従うことにより、彼の死んだ体はもう一度生き返りました。聞くことによって彼の思いは変えられました。
彼の信仰はもっと強くなりました。聞くことによりいのちが与えられました。

“まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。”(ヨハネ5:25)
ローマ人への手紙10:17 –“そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばについてのみことばによるのです。”
“聞くことができる人が生かされます。奇跡は聞くことから始まります。信仰は聞くことによりもっと成長します。.”
ナアマン将軍を説得したしもべらは本当に賢いです。エリシャが要求したのは難しいことではないことを言います。できないことを命じられたのではなくできることを命じられたのではないかと説得しています。もっと大きい事を命じられてもやろうとすることの、川に入って七たび体を洗うことなんてなにが難しいことなのかと。神様も我々にけっしてできないことをやれと要求される方ではありません。我々ができそうなことを命じられます。大切なのは神様の命令を最後まで従順に従うことです。

<2. 従順の最後の量を満たす瞬間奇跡は起こります。>
ナアマン将軍のらい病が直った瞬間はいつですか。6回体を洗ったときに、奇跡が起こったわけではありません。七たびからだを洗ったとき奇跡が起こりました。
“そこで、ナアマンは下って行き、神の人の言ったとおりに、ヨルダン川に七たび身を浸した。すると彼の体は元どおりになって、幼子のからだのようになり、きよくなった。”(第二列王記5:14)
奇跡は七回目の時起こりました。ナアマン将軍が従順の最後の量を満たした瞬間奇跡が起こりました。みなさん! ここで大切なのは、“神様の人の言ったとおりに”です。神様の人が語られた場所で、神様の人が言ったとおりに、神様の人が命じた回数の通りに従ったら奇跡が起こったのです。
従順は奇跡を起こします。大切なのは最後まで従順することです。従順の最後の量を満たすことです。6回の従順が奇跡として表される為には 7回目の従順がなければなりません。あと最後の一回の従順の価値を知らなければなりません。これが我らの生涯の神秘(しんぴ)です。
いままでどんなに努力したとしても最後の一回の従順がなければ結果は得られないからです。これが信仰の原理であり、祝福の秘密です。エリシャが7度祈った時、天から手の平ほどの雲が現れました。6回までではありません。7回です。神様の御言葉に従うためには我々の思いと基準と計画を下ろさなければなりません。愚(おろ)かしいほど従わなければなりません。ヨハネの福音書2章をみると、イエス様がカナンの婚礼の宴会の時、ぶどう酒がなくなったとき、水をぶどう酒に変えられましたが、それはしもべらの従順をとおして行われたことが分かります。イエス様の母であったマリヤはしもべらにイエス様の言われる言葉にただ従うようにと言います。
“母は手伝いの人たちに言った。「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。”(ヨハネの福音書**2:5)**
ここで学ばされる教訓があれば、それは最後まで従うことです。そしてやっていたことをあきらめないでもう一度やってみることです。大変だからといってすぐあきらめてはいけません。ナアマン将軍のしもべらのようにあきらめないように我々はお互いに励ましあわなければなりません。信仰は退かれることではありません。信仰は従うことです。最後まで従うことです。すると奇跡は起こります。

<3. ほかの人を助けることこそが自分を助けることです。>
愛する信仰の家族のみなさん! ナアマン将軍が直されて帰ってきたときだれが一番喜んだでしょうか。もちろんいろんな人が喜んだはずです。その中でも一番喜んだはずの人は小さい女奴隷ではなかったかと思います。その日以後女奴隷はきっとナアマン将軍の家で大きく愛されたと思います。我々も他の人のために愛によって仕えたとき、我々の人生もさらに祝福されることを信じてください。
“人生が与える一番美しい報いは他人を真心から助ける時、自分の人生もついでに豊かになるということです”(ラルフワールドエマーソン(Ralph Waldo Emerson))
奇跡は遠くにありません。近くにあります。問題の解決策は遠くにありません。近くにあります。ナアマン将軍の問題を解決してくれた人は自分の家に住んでいた小さい女奴隷でした。宝物は我々の家庭内にあります。我々の教会内にあります。だから者はみなさん一人一人です。大切なのは我々がどんな目で、われらが持っているものと我々とともにいる人々を見るかによります。一番近くにあるもの、一番近くにいる人を大切にしてください。我々は小さい女奴隷の信仰の姿勢を学ばなければなりません。いま自分に与えられている環境、自分が留まっているところを愛しました。幼い女奴隷は自分のいるところで自分のできることを行うことにより神様に栄光をささげました。神様は我々に決してできないことを命じられません。ナアマン将軍にもできないことを命じられませんでした。我々のできること、我々の知っていることをとおして神様に栄光をささげましょう。我々のまわりにいる人々に仕えましょう。

最後に、私は本文の御言葉を黙想しながら、聖書には具体的に出ていませんが、この小さい女奴隷の親について考えて見ました。女奴隷の生き方と、信仰をとおしてその親の影響を考えることができました。女奴隷の親のように、我々親がやるべきことは子どもたちを神様の御言葉をもって育てなければなりません。どんな人生の苦難にも逆境にも揺るがされない信仰の人になるように教えなければなりません。
愛するみなさん, こんにちも我々の周りにはナアマン将軍のような人々がたくさんいます。表は富と権力と、名誉を持っていますが、その中身は腐っています。そのたましいは病んでいます。絶望の中にいます。我々は彼らにイエス様の福音を伝えなければなりません。いのちの福音、恵みの福音、愛の福音、いやしの福音、回復の福音を伝えなければなりません。神様はいまもなお生きておられます。神様はいまも信じる者に恵みと回復の奇跡を起こしてくださいます。神様に解決できない問題は決してありません。神様を信頼し、神様の御言葉を信じる強い信仰を持って従うことによる神様の恵みと奇跡を体験するクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますように我々の主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!